主催 『福島は語る』上映会実行委員会

かすや映画上映会のご案内

監督：土井敏邦監督 （全8章170分、途中10分休憩）

日　時：2020年3月14日（土）
午後2時受付開始　午後2時30分上映開始

会　場：サンレイクかすや多目的ホール（福岡県糟屋郡粕屋町駕与丁1－6－1）
参加費：500円（高校生以下は、無料）
【お問合せ先：092－719－0885（弁護士法人奔流法律事務所粕屋オフィス）】

＜同時開催＞ 福島民報社　報道写真パネル展『福島の記録』（午後1時～午後6時）

後援：宇美町、宇美町教育委員会、篠栗町、篠栗町教育委員会、
志免町、志免町教育委員会、須恵町、須恵町教育委員会、
粕屋町、粕屋町教育委員会

東日本大震災から8年になる。2020年の東京オリンピックを前に日本中が浮き足立つなか、フクシマは「終わったこと」として忘れ去られようとしている。

しかし、原発事故による放射能汚染で故郷や住処を追われ、生業を失い、家族離散を強いられ、将来への希望を奪われた十数万人の被災者たちの傷は癒えることなく、膿み、疼き続けている。

その被災者たちが心底に鬱積した深い思いを吐露した。100人を超える証言者の中から選び抜いた14の〝福島の声〟を、いま日本に住むすべての人に届ける。

第一章「避難」（25分）
第二章「仮設住宅」（16分）
第三章「悲憤」（15分）
第四章「農業」（29分）
第五章「学校」（14分）
第六章「抵抗」（15分）
第七章「喪失」（41分）
最終章「故郷」（15分）

子どもの頃に
人を憎んだり
恨んだりしては　いけないと
母から教わりました

それなのに
こんなに辛いのは　何故ですか
こんなに悔しいのは
どうしたのでしょう

この先　ボクは何を探して
生きていけばいいのでしょう

「仮設にて ― 福島はもはや「フクシマ」になった」
藤島 昌治（著）・「東京電力株主総会」より抜粋

2時間50分の14人の証言が映し出す

杉下初男
1949年生れ。「帰還困難地域」の飯舘村長泥地区の農家。脱サラして始めた石材加工の事業が軌道に乗り、家も新築。しかし間もなく、原発事故で故郷を追われ、家も生業も失い、さらに追い打ちをかける出来事が起こる。

岡部理恵子
1988年生まれ。原発事故当時は2歳と生後1ヶ月の子の母親。半年後に子供とともに郡山市から新潟県に自主避難。郡山市に残って働く夫は、ほぼ毎週、新潟へ通い続けるが、避難が長引くにつれ夫婦間の溝が広がっていく。

小野田陽子
1969年生まれ。原発事故当時、双葉町の小学校5年生の担任。事故直後から、各地に避難した子どもたちの近況を伝える手書きの「学年便り」を送り続けた。避難した子どもたちの心情を語る。

藤島昌治
1946年生まれ。南相馬市小高町出身。原発事故後、南相馬市の仮設住宅に入居し、4年間、自治会長を務めた。その間、独り暮らしの心情や「仮設暮らし」から見えてくる社会の歪みを詩に綴り、詩集を出版。

武藤類子
大河原多津子
中村和夫
松本徳子
村田弘
地脇美和
佐久間いく子
渡辺洋子
小野田敏之
星ひかり

いまなお続く“深い思い”

監督・撮影・編集：土井敏邦　録音：藤口諒太　朗読・題字：高橋長英　写真：森住卓　挿入歌：「ああ福島」（李政美）　宣伝美術：野田雅也　ウェブサイト：安藤滋夫
配給：きろくびと・ピカフィルム　2018年 / 日本 / カラー / 170分